

## 令和7年度 第2回コロラド安全対策連絡協議会 議事録

## 【概要】

開催日時	2026年3月27日（金）14:00～15:30	
開催場所	在デンバー日本国総領事館会議室	
出席団体	コロラド日本語学校補習校	在デンバー日本国総領事館
	ロッキーズ日本語アカデミー	ロッキーマウンテン日系企業会
	Japanese Career Women	

## 【議事】

## 1 開会挨拶（在デンバー日本国総領事）

本協議会の継続的な開催により、単なる情報の受け渡しに留まらず、相互に関係を構築したネットワークとして機能していることに感謝申し上げます。

現在の中東情勢はかつてない激動の局面を迎え、直近では米国国務省から、イラン支持勢力により米国関連施設等が標的となる可能性について注意喚起が発出された。外務省及び総領事館としても、領事メールやホームページ等を通じ、在留邦人への迅速な情報共有と注意喚起に努めている。

本日はコロラド州における最新の犯罪傾向や防犯対策等を共有する。これらを日頃の防犯対策として活かすとともに、現在の特殊な情勢を踏まえた活発な意見交換を通じ、皆様の「警戒心のアップデート」を図っていただければ幸いである。

本日の内容は、ぜひ皆様のコミュニティでも共有いただきたい。

## 2 治安情勢と安全対策（在デンバー日本国総領事館 警備対策官）（別添1参照）

## (1) 2024年事件統計

ア 全米の犯罪件数はコロナ禍をピークに減少に転じ、2023年から2024年にかけては約7.7%減少した。

イ 減少の要因は多岐にわたるが、パンデミック収束による社会的混乱の解消、経済的ストレスの緩和、コミュニティ活動の再開に加え、政府による法執行や銃規制の強化、警察活動の回復などが挙げられる。

ウ 日米では罪種類型や犯罪件数の計上基準等が同一でないため、あくまでも参考値ではあるが、暴力犯罪（殺人、強制性交、加重暴行、強盗）は日本約2万8千件に対し米国119万8千件（日本の約41.9倍）、財産犯罪（窃盗、侵入盗、自動車盗、放火）

は日本が約50万2千件に対し米国は約583万5千件(日本の約11.6倍)であり、依然として警戒が必要である。

- エ 銃乱射事件 (Active Shooter Incidents) は全米で24件発生し、被害者が106人(死者23人、負傷者83人)発生した。なお、本統計にはギャング、薬物、DVに関連する銃撃は含まれていない。銃乱射事件の発生場所の内訳はオープンスペース12件、商業施設4件、教育施設4件、政府施設3件、宗教施設1件であった。

## (2) コロラド州の治安情勢

- ア コロラド州の犯罪件数も全米と同様の傾向にある。2023年と2024年の比較では、加重暴行のみ件数が増加し、全体では7.9%減少した。
- イ 人口10万人あたりの事件発生件数を比較すると、コロラド州は暴力犯罪(殺人を除く)及び財産犯罪で全米数値を上回っている。州別(ワシントンDCを含む)ランキングでは、暴力犯罪は8番目、財産犯罪は3番目と高い水準にある。
- ウ 長く居住していると環境に慣れ、油断が生じがちだが、統計上は決して安全とは言いきれない点に留意いただきたい。

## (3) 最近の事件・事件事例

先般、治安当局を訪問した際に得た、最新の治安情勢(事件・事故の傾向や対策)に関する情報を共有する。

- ア AIを利用した詐欺事件:家族の声をAIで生成し、「誘拐された。人質にお金を渡さないといけない。」と電話で騙り、金銭を詐取しようとする事件が発生している。AIは画像だけでなく声も生成できるため非常に危険である。たとえ家族からの電話であっても簡単に信用せず、本人確認をすることが重要である。
- イ Airbnb利用時の注意事項:長期休暇等で旅行する人に向け、SNS等で自宅を貸し出すと広告し、事前に契約金を支払わせ、利用者が現地に行くと、建物が無かったり、他人が住んでいたという詐欺が増加している。一般人の家をAirbnbで借りる場合にはSNS等の情報を過信せず、大手の仲介業者を利用することを推奨する。
- ウ 車上荒らしの狙いどころ:車上荒らしはハイウェイ沿いのホテルや観光地、ハイキングコースの駐車場等が狙われる。暖かくなると窓を開けたままの車や、荷物を車内に残したまま車から離れる観光客が増え、被害が増加する傾向にある。また、空港には監視カメラが多数設置されていることから、警察のパトロールが手薄になることがあり、この隙を狙って車上荒らしをする者もいる。犯人は単独ではなく、実行犯と見張り(自身の車を目隠し代わりにして、外部から盗んでいるところが見えないようにする手口)でチームを組んで行われることが多い。

#### (4) その他

ア (前協議会にて問い合わせのあった、) コロラド州の銃規制に関し、次の3点を解説。

① 購入：年齢制限(21歳以上)があり、バックグラウンドチェックが義務づけられ、購入しても受領まで3日間の待機が必要。② 所持・保管：自宅で保管する場合には鍵付きの保管庫を用意する等の安全に保管する義務が生じ、重罪歴やDVで有罪判決を受けた場合には所持が禁止される。③ 携帯：衣服の下などに隠して携帯するには郡保安官発行の許可が必要、オープンキャリー(銃を隠さず携帯する)は、州法では原則認められているが、地方自治体の条例で禁止されている場所が多数あり、その他の禁止区域(学校、政府庁舎、空港制限区域等)及び、「銃持ち込み禁止」を掲げている私有地も持ち込みが禁止されている。

イ 公的機関や大使館、総領事館の職員を装った特殊詐欺が発生している。不審に思った際には遠慮なく総領事館まで問い合わせいただきたい。

#### (5) まとめ

本日は主に事件等の犯罪に係る説明をしたが、その他の安全対策にも留意願いたい。現在、米国内では「はしか」が流行しており、コロラド州では11件、隣のユタ州では200件を超えており注意が必要。また、春から夏にかけては竜巻、豪雨及び洪水等の自然災害にも目を向ける必要がある。日々の情報収集と備えをお願いしたい。

#### (6) 質疑応答

(出席者からの情報共有) 米国では銃での自殺を防止する取り組みとして「Donna's Law」という法律がある。メンタル的な危機に直面している場合等に、衝動的に銃を購入できないよう自発的に登録する制度である。登録は30日間有効で、本人の希望によりいつでも解除することができる。

米国内での自殺について、いかに食い止めることができるかをメンタルヘルス従事者間でも議論されている現状である。メンタル的な危機に直面し、衝動的な行動をとりたいと思った場合には15分間冷静になる時間を設けることが鍵であり、衝動を思い留まれる可能性が上がる。

#### 3 安全対策に関する意見交換(在デンバー日本国総領事館 領事・警備班長)(別添2参照)

現在の中東情勢等を鑑み、旅行や出張時に使用するホテルに関する安全対策について、事例を紹介しつつ解説し、意見を伺いたい。また、現在、警戒が高まっている山火事についても皆様に意見を交換していただきたい。

(1) 15階建てのホテルに滞在するとした場合、低・中・高層のどの階層を選択するか。それぞれの階層におけるメリット、デメリットは以下のとおり。

ア 低層

付属施設等へのアクセス、外部への避難が容易。他方で不特定多数の人が出入りしやすく、(屋外からの) 空き巣等の被害が懸念される。また、テロ等における爆発や車両突入等が発生した場合に被害が甚大になる可能性がある。

イ 中層

低層に比べ、空き巣等の可能性が減る(但し、街路樹等の高さによっては注意が必要)。有事には消防車のはしごが届く範囲となり、救助を期待できる。自力避難の場合には階段移動となり負担となる。

ウ 高層

眺望が良く、騒音が少ない等のリゾートとしての良点はあるが、避難する場合には負担が大きくなる。

(2) 客室外から爆発音が聞こえた場合にどのような行動をとるか。例とその行動に対する解説は以下のとおり。

ア 何が起こったのかを確認するため窓から外を確認する。

爆発は1回とは限らず、複数回発生する可能性もあるため、安易に窓に近づいたり、外を確認するのは危険に繋がる。

イ 客室の外(屋外)に逃げる。

上記(ア)と同様。また、テロ等においては大きな音を出すことで屋内の人を外部におびき出す可能性もあるため、安易に外に出ることは危険。

ウ 客室内に留まる。

事件・事故等が発生した場合には、必ずホテル側からアナウンスがされるため、状況を確認出来るまでは客室に留まる。非常ベルが鳴動しても上記(イ)と同様の理由ですぐには避難せず、アナウンスを待つ。なお、客室内において身を守る方法として、爆発等に対し、客室内で最も安全とされる場所は飛散物や衝撃を遮るもののある浴室(浴槽)であり、他にもベッドのマットレスを窓に立てかけることで、爆発による窓ガラスの飛散等から身を守ることができる。

(3) 客室内に不審者が侵入することを想定した場合の対応として、どのように自身の身を守るか。また、事前に防止するために普段から実施していることはあるか。

ア (出席者からの意見) 扉の鍵を掛け、ハンガーを扉の接続部分等に噛ませることで、扉が簡単に開かないようにしている。また、カーテンは遮光カーテンも含め、すべて閉じ

るようになっている。

- イ (出席者からの意見) 外部から扉の開錠を防ぐカード状のアイテムが市販されているので自身は使用している。
- ウ 「Do not disturb」のプレートをドアノブに掛けることで在室中をアピールしたり、カードキーが室内電源キーになっている場合は、他のカードをスイッチに差し込むことで室内ライトを点灯したまま外出する。また、夜間でもテレビの電源を点け、音や光を出すことで夜間でも人が起きているように見せることができる。
- エ 自身が室内にいる状況で不審者に室内へ侵入されてしまった場合、室内の形状や扉、施錠の有無等の観点から浴室への避難が考えられるが、万が一、対峙しなくてはならなくなった場合には周囲にあるもので戦う必要がある。あくまで参考としてだが、外部の研修ではトイレの水槽の蓋を武器の一例として取り上げていた。

(4) 現在、コロラド州は例年と比べて非常に乾燥しており、山火事への警戒が高まっているが、皆さんが行っている日頃の対策や準備について意見を伺いたい。

- ア (出席者からの意見) 自分は山間部に居住しており、過去に5回の避難勧告を経験したことがある。自分の経験をシェアすると、非常時に持ち出すもののリストはコミュニティから提供があったので、それに沿って準備した。持ち出し用の鞆にはパスポートや保険証書等を現金とともに準備している。また、普段からデータの無い紙の写真を持ち出せるようにし、ハードドライブはバックアップをとっている。
- イ (出席者からの意見) 過去の写真のように紙しか無いものは重要で、自分は遺書を入れている。また、出生証明、戸籍、結婚証明等を入れておくとういと考える。
- ウ (出席者からの意見) その他の事前の備えとして、自宅への延焼を防ぐため、木の枝が自宅近くまで伸びていたら切る。松ぼっくりや雑草も延焼の原因となるので注意して除去している。なお、雑草に火が着くと、火柱は3倍の高さになるので、普段から30cmを超えないよう刈っており、特に避難経路となる道路脇などは気を付けている。
- エ (出席者からの意見) 山火事に関して言えば、事前に予見可能なので、普段からニュース等の情報を把握しておくことが重要だと考える。

#### 4 総領事館からの連絡事項

- (1) 「たびレジ」の登録について、以前からあるシステムで旅行や出張などで短期滞在する場合に登録をお願いしている。登録地付近で有事の際に情報共有等に活用するものである。既に海外に居住している長期滞在の人に対しては在留届を出していただいているが、短期の場合には「たびレジ」となる。現居住地から第三国に旅行する場合等にはその地の情報を得られるので、ぜひ旅行前に登録していただきたい。(別添3参照)

(2) 在外選挙人名簿登録について、コロラド州内の各所に出向いて申請受付を行っている。本協議会への出席団体等でも複数名の申請希望者がいれば、訪問して受付を行うのでお声掛けいただきたい。(別添4参照)

5 閉会挨拶 (在デンバー日本国総領事館 首席領事)

出席いただいた皆様より、銃規制の最新情報や山火事に対する対策等の情報を聞くことができ有意義な意見交換となった。各所属団体等で情報共有をしていただき、在留邦人の皆様が安全対策を強化できるよう協力いただきたい。

添付資料	別添1：最近の治安情勢と安全対策 別添2：安全対策に関する意見交換 別添3：たびレジに必ず登録を！ 別添4：在外選挙の制度と手続について
------	---